

令和7年度第1回旭川市工業技術センター運営委員 会議録

日時 令和7年12月24日（水）午前10時 ～ 午前11時

場所 旭川市工業技術センター2階視聴覚室

出席者 会長：佐々木通彦

副会長：佐藤大志

委員：森本千晶、松田誠一、関山真教、工藤正之、伊藤尊之、川原潤也、
大野恵司

市側：経済部長 三宮元樹

経済部産業振興課長 後藤哲憲

工業技術センター所長 村上雅徳、ほか工業技術センター職員3名

委員会の公開、非公開の別 公開

傍聴者 なし

当日資料

- ・ 次第
- ・ 資料1 令和6年度事業報告
- ・ 資料2 令和7年度の取り組みについて
- ・ 資料3 使用料・手数料の見直しについて

【1 開会】

【2 経済部長挨拶】

【3 運営委員紹介（自己紹介）】

【4 工業技術センター職員紹介】

【5 議事】

（議長）

議題（1）「令和6年度事業報告について」事務局から説明願います。

（事務局）

資料1を御覧ください。ポイントごとに御報告させていただきます。4ページを御覧ください。

最初に「3 試験、検査及び測定」について、当センターでは、工業材料の強度試験（引張試験や圧縮試験）などを行い、成績証明書を発行しております。令和6年度の実績は593件で、前年度と比較すると240件程減少しておりますが、理由としては、圧縮試験の減少に伴うものであります。圧縮試験の前年度が364件に対し、令和6年度は59件となっており、令和5年度には東神楽の葬祭場建設に伴い、一時的に増加したものと

考えております。試験別の利用につきましては、各試験の利用内訳を御覧ください。

次に、5 ページの「4 機器開放及び貸室」を御覧ください。

(1) 機器の使用料及び件数は、548件2,360時間となっております。前年度と比較し稼働時間にして560時間増加しています。機器の利用状況の詳細につきましては、表のとおりですが、加工機器のレーザー加工機と溶接機を多く利用いただいているところでございます。

次に、7 ページ「部屋の使用料及び件数」ですが268件で、前年度と比較して5件減少しております。

次に、8 ページ「技術指導及び相談件数」は48件となっております。相談内容としては、材料や試験検査に関することが20件、各種加工・検査機器に関することが13件、その他の15件となっております。

次に9 ページ「講習会、研修会等の開催」は41件開催し、受講者数は延べ242人になります。講習会の主な内容については10 ページになります。①センター職員が講師となっている講習会の内訳で、企業の方の依頼があると1名から随時開催しています。②の他機関との共催講習会として、旭川高専の先生を講師として実施した3DCAD 講座や高等技術専門学院の先生を講師としたシーケンス制御基礎講座などを実施しております。③のその他事業としては、サイボウズ株式会社にCMでもお馴染みのキントーンハンズオンセミナーなどを実施しました。

次に11 ページ「7 情報収集及び提供」としては、資料の開放をはじめ企業情報のデータベースなどホームページによる情報提供を行っております。昨年はデータベース登録企業へ各種補助金やセミナーに関する案内を20件実施したところであります。「8 その他の主な事業」としては、各種会議への参加などを記載しております。

以上で、令和6年度の事業報告を終わります。

(議長)

ありがとうございます。ただいま事務局より、令和6年度事業について、御説明いただきました。皆様、何かございませんか。よろしいですか。

それでは、議題の(1)令和6年度の実施報告について御承認いただきました。

続きまして、議題の2番目、令和7年度の取り組みについて、事務局説明をお願いします。

(事務局)

資料2「令和7年度の取り組みについて」を御覧ください。

最初に「1 令和7年度予算」ですが、施設管理費として1千846万7千円で、施設を維持するための費用になります。今年度、全館LED照明に切り替えました。単年度の入替えでは、2千万近くかかるところでしたが、10年リースにしたことで、半額ぐらいの金額で入れ替えることができたところです。

次に、技術指導行政費1千60万6千円です。今年も機器の消耗品の値上がりが大きく、特にレーザーガスや窒素ガスなどが予算要求時よりも値上がりしていることで、施設としては対応に苦慮しているところでございます。

続いて、設備整備費280万3千円です。冷風機を1台購入しました。

次に、施設改修費353万円です。事務室、応接室、用務員室の3室にエアコンを設置しました。3年間かけて施設全体にエアコンを設置することができたところです。

次に、機械金属認知度向上補助金40万円です。業界の人材確保を目的に、認知度向上に向けた取り組みを実施する団体に補助金を支出しております。

次に「2 講習会・研修会等の開催」として、「イ講習一覧」にあるような内容を参加者の希望に合わせて随時開催しています。今年は、9番目「蛍光X線分析装置操作講習」を新たに開催しました。また、「ウ特別講習」として企業へ訪問して講習を開催したところであります。

次に「(2) 関係機関との共催による講習」ですが、10月に高専の小林先生を講師としてソリッドワークスを使用した設計の基礎講座を実施しました。また、同じく10月には、ノーステック財団と共催で「ロボット&デジタル人材育成講座」と題し、協働ロボットの実機を持ってきてもらい、実際に操作する講習会を開催したところです。また、2月には、昨年同様、札幌の道総研の移動工業試験場を開催する予定です。

次に「(3) 施設見学の受入」です。今年は商業高校の生徒を受け入れました。

次に「(4) メタルワーク体験事業」ですが、子どもたちにもものづくりの楽しさを伝えるべく金属加工体験事業を旭川機械金属工業振興会と共催で開催しております。年明けの1月10日には「鋳造キーホルダー製作」を行う予定ですが、現時点で募集人数を超える応募があるところでございます。

次に「(5) 機械金属ものづくりPRプロジェクト」です。旭川龍谷高校2年生の就職希望者に対し、機械金属業界を知ってもらう取り組みを旭川機械金属工業振興会と共催で11月に開催しました。映像がありますのでご覧ください。(動画再生)

参加した学生たちは、余暇がどうか給料がどうかというよりは、仕事に対してやりがいを感じているというアンケート結果をいただいたところです。

続いて資料の説明に戻ります。「3 共同開発」です。

道産材を使用した樽づくりに使用する器具を共同で開発しております。この会社は北大の学生達が起業したもので、なら枯れから木々を守っていききたいというところから、道産材を使用して何かできないかと考えた学生たちが、属人的であった洋酒樽生産を道産材とIT技術を用いてDXし道産材の付加価値を高めていくプロジェクトを行っており、市役所有志による「お酒に関する勉強会」で紹介され、樽にはめる「たが」をレーザー加工機で加工したところからの縁で一緒に取組んでいるところです。彼らの現場に行き撮影してきた映像をご覧ください。(動画再生)

現在は、ちょっとした器具の製作や溶接の講習などを行っているところです。

次に「4 BCP戦略」です。

チラシをご覧ください。旭川市が今後30年間震度6弱の地震の発生率が全国的に見てもかなり低いことなどのメリットを生かし、BCP（事業継続力計画）の連携先になることを推奨し、非常時だけではなく平常時にもやり取りができることでビジネスチャンスにつなげていこうとするもので、今年は、春にものづくりサステナフェアに出展しPRしてきました。加えて、金融機関を介しPRさせてもらった中で、先月、本州の企業が旭川の企業の工場等を視察に来られたところで、今後の連携可能性について協議中であります。

最後に「7 その他」になります。当センターの機器更新、導入等の費用に活用するため企業版ふるさと納税にエントリーし、チラシも作成したところです。市外企業が対象のふるさと納税になりますので、市外に取引先企業をお持ちでしたら周知への御協力をお願いいたします。

これで、令和7年度の取り組みについては以上となります。

（議長）

ありがとうございます。

ただ今、事務局より令和7年度の取り組みについて説明がありましたけども、皆さんの中で何か御意見、御質問はありませんか。

（委員 A）

BCPの件ですが、非常に重要な取り組みであると思っています。御説明いただいた中で本州の企業は、どのような業種になるのかをお聞きしたい。

（事務局）

制御盤等を製作する会社になります。その企業の方も北海道ならば商圏がかぶらないとか、本州で地震が起きても、北海道なら比較的離れているので安心であるという理由で、御提案をいただいているところでございます。

（議長）

ありがとうございます。委員Aは群馬から旭川に来られたと伺っておりますが、群馬県はBCPに対する意識は如何ですか。

（委員 A）

群馬県も結構災害が少ない県なのですが、BCPに関しては、だいぶ前から取り組んでいます。私も旭川の特性を見ていた中で、BCPに取り組むことが良いのではないかと考えていたところで、このような取り組みが始まっていることを知り、今後は、いろいろな企業が旭川にきてもらえれば、もっと産業が盛り上がると思いますので、ぜひ力を入れて取り組んでほしいと思います。

（議長）

どちらかという、我々は、災害がないところにいるので、東北の地震を教訓にして、少し緊張感を持って暮らさなければならないし、地域のことも考え、さらに言うと、我々は、BCPにより連携した企業を受け入れた中で、また地域としてどのようなことができる

のかを考えることも必要だと思います。

令和7年度の取り組みについて、事務局の説明に少し補足させていただきます。「機械金属ものづくりプロジェクト」実施後に旭川龍谷高校の校長先生と事務局長と会う機会があり、先日の取り組みについて続けてほしいという話がありました。旭川龍谷高校もキャリア教育などいろいろな教育を実践しているのですが、私学としては、少子化に向かう中で特色を持った取り組みを行っていきたいのでよろしくお願いしますと言われたところです。他に何かございませんか。

(委員 B)

旭川龍谷高校の取り組みも旭川市の X に載っておりましたので、私も拝見させていただきました。私どもも今年から X を起ち上げ、そこでリポストさせていただいたところです。大変良い取り組みだと思いますので、ぜひ続けていただきたい。また、工業技術センターとは、親子ものづくり体験教室で連携させていただいておりますので、それ以外でも連携できるところがあれば検討していきたいと考えています。

1つ質問がございます。私どもは、人を集めるのにだいぶ苦勞していますが、こちらではどのようにして受講生を集めているのか教えていただきたい。

(事務局)

我々もセミナーや講習会の募集には苦勞しています。我々は、先ほど御報告しました機械金属のデータベース、130社の登録がありますので、まずこちらに流します。また、セミナーの内容に応じて、各団体、塗装組合、板金組合、電気工事組合、空調組合などに周知を依頼しているところです。特に、10月に実施した3DCADの講座に関しましては、どちらかという、機械金属の分野の方の参加というよりは、家具、木工会社の方の参加が多かったり、IT関係をやりながら、ちょっとしたものを製作している会社の方の参加が多いということもありますので、セミナーの内容により、どこにアプローチしたらいいかということを考えながら告知しているような状況でございます。

(委員 C)

私たちは、当該施設の見学会を何回かやっていて、高校生やすでに働いている方、小学校高学年を対象に、ものづくり教室なども行っており、同じように募集していく中では厳しい状況が続いております。

(議長)

ポリテクセンターや高等技術専門学院の学生が少ないということは、我々業界にとっても人手不足に繋がると思いますが、委員 D は如何ですか。

(委員 D)

そうですね。ほぼ直結ですからね。

(議長)

何か、こういうことに力を入れているということがありましたら、御紹介いただきたい。

(委員 D)

先ほどの旭川龍谷高校のイベントに関しましては、初めてのトライで、手探りで、それぞれがアイデアを出しながら実施したところでありました。アンケートの結果が、良かったのが救いですが、それがなければ本当に自己満足でしかない取り組みでした。これから、この取り組みを継続し、他の高校や大学でも協力いただきながら実施して、本当に種まきというよりは、畑を耕すところから始めているところだと思っています。小学生にも職業選択の1つとして印象付けていきたいと思っています。まだまだこれからなことなので、皆さんから、こうしたら良いとか、一緒にやりましょうとか声をかけていただくと力強いなと思っています。

(議長)

委員 F は BCP について如何ですか。

(委員 F)

基本的に、旭川は安全、安心ということで、安全保障に関わっていくようなものを1つ進めていきたいと考えていて、BCP は合致していると思います。今、旭川市では、防災庁の地方拠点を旭川に設置してほしいということで動いていただいている、それこそ国からお墨付きをいただけるような状況になると良いのではないかと考えております。

(議長)

旭川商工会議所も市や国なりに要望書を作っている中で、このような魅力を活かして、この地域に引き込むような仕掛けづくりを期待したいと思います。他に何かございませんか。

(委員 G)

今、人が少ないっていうのは、本当にリアルな現実で、会社は仕事があるのに人がいなくてどんどん倒産していく、私たち経営者はリアルに現実を受け止めなければいけないと思っていて、どうやったらいいのか。給料を高くするとか、休みを多くするとかいろいろありますが、まずは、従業員が、ワクワクしてものづくりはすごいということを感じてもらうことが、私たち企業側の努力だと思っている。今までは、BtoB でやってきて、コンクリートの型枠の技術力というのが、若い人たちに響いていなくて、そのことが当たり前ようになってきているので、自分たちが作ったものに対してありがたいってもらう BtoC の感覚を与えたいなと思って、デザイン思考を取り入れることを考えているところですが、なかなか1つの企業だと起爆剤にもならないので、そういうことを業界もしくは市とか学校、関係団体で、職人さん達がワクワクするような大きな祭典を実施し、そこで自分というものの存在価値を改めて再認識するようなイベントをやりませんか。

(議長)

昔、ここを会場にして、ものづくり博覧会というイベントを何年かやりました。そういったことに取り組むことで、盛り上がりだとか、そこに参加する情熱というのもあったと思いますので必要なことではないでしょうか。

(委員 H)

溶接協会としては、地元の高校への出前講座や、高校生のもの作り、溶接甲子園に講師を派遣して支援させていただいております。その中で課題になるのが、費用面になります。工業高校は、年間4万円しか溶接に関する予算がないということで、溶接協会の支援がなければできないという現状です。今は、会員企業に負担していただいておりますが、これを続けていくには、どこかで金銭的に予算を確保しないと続けられないと感じています。

また、去年は4名指導して、2人は地元の機械金属業界に入り、残る2人も機械金属業界ではないものの地元で就職をしてくれたといういのは地道な取り組みがあってこそだと思います。最近の若い人たちも、溶接は、やってみると面白いねという反応が7割ぐらいあるので、そのような取り組みを形にするには、委員Gが言われたように、もっと広くみんなで何か大きなことをやってもいくことに繋がるのかなと思っています。

(委員I)

BCPについては、昨年、香川県に行き、現地の声もお聞きしてきた中で、災害に対する意識が全体的に高いと感じましたので、旭川市でもこの取り組みを積極的にやっていきたいと思っています。また、先ほど委員Gのお話にもありましたが、鐵工や機械金属業界を上げて、全体的に盛り上げていくことはすごく大事なことだなと思いました。弊社でも実業高校の生徒のインターシップの受け入れも行っていますが、地道な取り組みとなりますので、業界全体での取り組みや、まちぐるみで人材育成や、将来を見据えた取り組みを行う必要もあるのではないかと思います。

(議長)

ありがとうございます。皆さんの御意見を伺いました。それでは、第2号議案について御承認いただいたということでよろしいでしょうか。

続いて、議案第3号「使用料・手数料の見直しについて」事務局説明をお願いします。

(事務局)

資料3 「使用料・手数料の見直し」についてを御覧ください。

これは、旭川市の施設の使用料等を4年ごとに見直している中で、今回は、コロナ禍を経て6年ぶりに見直すもので、現在、パブリックコメントを行っているところでございます。

上段にページ数の記載がありますが、資料1－2をご覧ください。

使用料の算定ですが、令和4年から令和6年の過去3年を基に施設の運営にかかった対象コストを算出します。貸館については1時間・1㎡単価を算出し面積と時間を掛けて算出しております。また、機械使用料については、1件当たりの処理にかかった事務経費と人件費の合計から算定します。手数料も機械使用料と同様に計算しております。また、下段に記載がありますとおり、使用料・手数料ともに算定が1.5倍を超えても改定料金は改定前の1.5倍を上限としています。

上段にページの記載がありますが、資料2－60をご覧ください。

中央付近に記載のあるのが現行料金で、その右隣が新料金となります。貸館の使用料につきましては、電気代、清掃業務等の委託料、人件費が３年間値上がりしていることが増額改定の要因となっております。また、機器の使用料ですが、各機器にかかった費用、消耗品、電気料、修繕費用、校正作業等の手数料、機器の運用保守などの業務委託料、職員の人件費を積算したもので、すべての費用が高くなっていることが増額改定の要因であります。

下段の資料３－１３をご覧ください。

試験の手数料に関しましても機器使用と同様の内容となります。

説明は以上です。

(議長)

ありがとうございます。ただ今、第３号議案の使用料・手数料の見直しについて事務局から説明がありましたけれども、何か御意見、御質問はありますか。

時節柄というか、世の中の物価が値上がりしていく中で、確かに増額改定になるのは仕方ないかなという気持ちだと思います。試験などは、機械金属の業界よりは、建築業界のほうが影響がありそうですね。

(事務局)

確かに、試験に関しては、建築関係の利用が多いと思います。逆に機械関係ですと、業界の方の利用が多いと思われます。

(議長)

最近見ると、視聴覚室や会議室などは、いろいろな団体が使用していますね。

(事務局)

おかげ様で。空調を入れたのと、wi-fiのオンラインが相当強いのが入っていること、あとは駐車場があるということで、ときわ市民ホールからまわってきているお客様もいらっしゃいます。

(議長)

他に何かご意見ございませんか。それでは、議案第３号について御承認いただきました。

続きまして議題以外で何か御意見等はございますか。

よろしいですか。それでは、議長の任を終えさせていただきます。本日はスムーズな議事進行に御協力いただきありがとうございました。

【６ 閉会】